



今回の震災報道で、政府や電力会社、大手メディアの情報発信に「情報隠し」や「情報操作」が疑われ、国民は改めて情報内容や情報源のチェックの大切さを知った。適確な情報にアクセスするには、適確なキーワードの入手が必要である。美味しいキーワードの入手方法を提案することにした。

第十一話 ウェブ検索の鍵となるキーワードを入手するには（1）

ウェブ検索をしている際、たまたま見つけたキーワードが、その後の情報収集を大きく進展させた。そういう経験を持つ人は、少なくないはずである。ウェブ検索では、この美味しいキーワードを的確に入手できるかどうか、情報収集を左右する。

ここでいう美味しいキーワードとは、世間でいう「キラワード」である。キラワードとは、情報内容を凝縮している用語であり、その内容を即座にイメージさせる用語である。世の中で話題性を獲得した用語であり、新造語も少なくない。

例えば、「チェルノブイリ」、「スリーマイル」は、世界中の人々にとって、原発事故を連想させるキラワードになっている。今回の福島原発の事故では、世界中の人々がこの2つの用語を想起したはずである。残念ながら、「フクシマ」も新造語として、この仲間入りをしてしまった。

しかし、門外漢にとってキラワードを見つけるのは、それほど簡単なことではない。それは、その使用される領域、時期、人々の範囲は、様々だからである。例えば、世界中の人々が知っている用語から、熟年世代で知られている用語、若い女性ギャルの中だけで通用している用語、専門家や業界関係者内だけで通用する用語、最近話題を集めはじめた用語などなど……。

ちなみに、福島原発に関するキラワードの一部を紹介すれば、「フクシマ 50」、「原発ジプシー」、「原発銀座」、「オペレーション・トモダチ（トモダチ作戦）」、「ヤシマ作戦」、「貞観地震」、「原発ムラ（原子力村）」、「炉心溶融（メルトダウン）」などなど……。

このようなキラワードを、偶然によるのではなく、システムティックに入手するには、どうしたらよいであろうか。現在進行形の福島原発の災害を例に役立つ方法を、今回と次回の2回にわたり紹介することにする。

他人と異なる一味違う情報収集をするには、少なくとも2段階のステップを踏むことが必要となる。第1ステップは、調べたい分野全般に関する情報を浅く広く収集する。例えば、「話題になっているニュースを、チョット調べてみるか」という段階である。

このステップは、関心のあるコンテンツをとりあえず調べると同時に、鍵となるキーワードを探す段階である。キーワードは、検索されたコンテンツの中にあるからである。多くの方は、コンテンツの中味にのみ関心を持ち、コンテンツを探す手掛かりになるキーワードには、なぜか、あまり関心を示さない。

現在は、グーグルやヤフーなどの検索エンジンの検索窓口にキーワードを入力し始めると、検索エンジン側が、検索者に役立つであろう一連のキーワードを、自動的に検索窓の下側に表示してくれる。また、検索されたウェブコンテンツ内にも、「関連トピックス」、「関連項目」、「キーワード」といった項目欄が用意されている。また、コンテンツの記事の中に、各種の専門用語、製品機器、施設名、推進団体、役所名などの具体的な名称が書かれている。

検索エンジンやウェブサイトが提示してくれるこれらの用語は、次の検索キーワードの候補なので、役立ちそうなキーワードはメモっておくことが大切である。この配慮が、キラーワードを見つけれられるかどうかの差につながるのである。

第2ステップは、第1ステップで入手したキーワードで、関心のある領域に絞って情報収集に努める。この成否は、製品名、人名、機関名、サービス名など注目を集めている具体的なキーワードを、入手しているかどうかにかかっている。

この第2ステップでも、次の検索キーワード探しを続けることが重要である。まず、少しでも不明だったり、もう少し詳しく知りたい専門用語や推進団体などは、その場で、ウィキペディアや Weblio などの百科事典や専門用語辞典を、調べることである。これらの百科事典では、検索語に関連する用語が、記載項目の内容の最初や最後に記載されている。次の検索キーワード候補の重要な情報源になっている。

今回は、現在進行中の「福島原発」に関する情報収集を例にとろう。福島原発の特徴は、世界中が注目し数多くのウェブサイトが、様々な観点から情報発信している点にある。すなわち、「福島原発」のどの部分に注目し、より深く絞り込んで情報収集するかが重要となる。

例えば、福島原発の事件について、第1ステップでは、ヤフーや新聞社のサイトなどで、特集コーナーをみれば、一般的な情報を簡単に入手できる。ヤフーや大手メディアのサイトの検索を提案するのは、日本人の誰もが知っているウェブサイトであるからである。一定の品質の情報であり、かつ、時系列で情報入手できるという大きな利点がある。

この第1ステップで、原発事故に関する様々な情報を入手してくると、「想定外」、「安全神話」、「情報隠し」、「保安院」、「レベル 7」、「基準値」、「計画停電」、「電源三法」などなどのキーワードが、今回の災害報道で、よく使われている重要なキーワードになっている。

さて、今回の原発事故報道では、何時の時点で、どのメディアによって報道されたかが、大きなポイントになっている。災害の巨大さ・異常さゆえに、我が国の政府や電力会社、大手マスメディアの情報発信は、当初、「情報隠し」や「情報操作」を疑われたからである。

このため、3月半ばから4月始めまでの段階で、公式機関やマスメディアによる自主規制の掛っていない情報源は、海外の政府機関や大手メディアであり、国内の週刊誌であったといつてよい。海外で言えば、「ウォールストリート・ジャーナル」「ロイター」、「BBC」、「CNN」などの海外主要メディアであり、国際原子力機関 (IAEA)、米原子力規制委員会 (NRC) などからの情報発信であり、このメディア名や機関名が、キラーワードとして活用できた。

国内では、「週刊現代」、「週刊新潮」、「週刊ポスト」「週間朝日」... といった週刊誌であり、その具体的な名称が、検索のキラーワードとして価値を有している。

実際、このキーワードを使って、グーグルで、{週刊ポスト 福島原発}、{サンデー毎日 福島原発}、{ブログ 週刊現代 福島原発}などと検索すると、記事見出しだけでなく、記事内容まで調べられる。大手マスメディアが発信していない情報が、簡単に入手できる。

これら週刊誌は、ウェブサイトでは、バックナンバーを含め「見出し」は公開しているが、記事内容は非公開である。しかし、話題になった週刊誌の記事は、読者のブログなどに引用・紹介され、ネットで読むことができる場合が多いのである。(続く)